

水道の未来のために

赤坂小学校三年二組

金上 宗佑

ぼくは、夏休みに水道歴史博物館に行きま

した。そして、江戸時代の生活にしているのて

ん示を見て、水道にきょう味を持って自分で

本やインターネットの記事を読んで調べてみ

ました。

日本は、実はげんやい水道のきじりつ世界

で一番進んでいるそうです。水道水をそのま

ま飲む数少ない国で、水道かんの水もれも

少ないです。なので、ぼくは日本の水道のき

じつを世界中の国に伝えて、どこの国でも

水道の水がやたかになるようにしてあげたら

いいなと思います。

世界の人口は、これからどんどんふえて

いくのに、人間のくらしにひっついてな水のり

ょうが二五十年ごろには、まのままだは大

はばはぬえしてしまいかえ。甘い水をバかけ

るのも大事ですが、ぼくは、日本のきじりつ

で使える水のりようをふやせたりよいと思ひ
 ます。――
 たとえば地球上の水の九十パーセントは
 海水なのでそのままで飲むませんが海水を
 飲めるようになさじうを広めていけば、水ぶ
 足もふせげるかも知れません。
 ほかに、町の中にも水ぶ足かいしうの
 アビデアがあると思います。たとえば野球場
 にうった水をためてトイレの水やグラウンドに
 まく水などに使ったりする。かつよな水を
 自分で手に入れるしせつがふえれば水ぶ足を
 ふせげます。
 さらに、古くなつて水道かんがはれつしえ
 つまつてしまふことがさいきん多いよな
 で、今ある水道かんの外がわに少し大きな水
 道かんもかぶせたりいひと思ひます。そうす
 れば水道が長持ちするはすです。
 このよなことをして水道をしん化させて
 いけば二十五年でも世界中の水ぶ足をふせ
 いで、水のゆたかな地球がつづいていくと思

います。げんざいの水道があるのは、昔の人
たちのどかのおかげだから、自分たちも大き
くなったらどかしても、とはってんさせてい
きたいです。